

会社経営者対象

『四柱推命による経営指導』

- 四柱推命では、まず鑑定する方の宿命ともいえる人生のカルテ「命式」を出します（ここでは説明を省きます）。次に、命式から運気の強弱（身旺・身弱）を出し、結果どのような五行が最適なのかを推測します（用神・忌神）。さらに 10 年ごとの運気と 1 年ごとの運気を出した上で、全体的な推命と、ある程度の時期に絞り込んだ推命をいたします。
- 推命の種類は、全体運を始め仕事・健康・異性・家族・会社から、相性・転居・吉方・食材・色など様々な分野にわたり推命できるのです。

実例：私の経験を検証・推命

恋沼薫 昭和 30 年 4 月 11 日午前 11 時 20 分生まれ

《命式》

丙壬庚乙

午寅辰未



大運 1955 年 4 月 00 歳 庚辰 偏印

1957 年 2 月 01 歳 己卯 正官

1967 年 2 月 11 歳 戊寅 偏官

1977 年 2 月 21 歳 丁丑 正財 1884 年結婚 1985 年自宅建築 1986 年長女

1987 年 2 月 31 歳 丙子 偏在 会社最盛期

1997年2月41歳 乙亥 傷官 2001年会社破綻 2002年再生コンサルタント

2007年2月51歳 甲戌 食神 占館 poen

2017年2月61歳 癸酉 劫財

2027年2月71歳 壬申 比肩

2037年2月81歳 辛未 印綬

2047年2月91歳 庚午 偏印

●基本的な宿命

壬水寅の日、庚金辰月生まれ。

我が身日干壬水には根がなく、僅かに辰 の蔵干中に癸水があるだけ。

月干に庚金があるも身弱です。

用神は壬水・庚金・丙火

忌神は土・火・木

●属 性

壬水の性質は大きな水、海や湖、大河に例えます。

水はよどむことを嫌い、絶えず流れていないと腐り、澱みます。動くことで恒常性を保てることと、器に収まらない水の如く自由を愛する性格です。

●検証と推命

1、立運は1歳10か月ですからほぼ2歳運です。21歳、31歳、41歳の年に大きなイベントがあります。

2、結婚は1984年で29歳の時。1985年には自作のログハウスが完成、1冊目の書籍『丸太小屋格闘記』(クロスロード刊)を発行したのもこの年です。

長女が1986年31歳の時に生まれています。3年間立て続けに大きなイベントがありました。

⇒大運判断：水星にとって丁火は妻星、結婚はそのためです。

⇒年運判断：長女が生まれた1986年は丙寅、寅は水星に取って食神傷官で子供を表します。

3、その後1987年からの10年間は、自分で興した建築会社の繁栄の時期で、

我が世の春。仕事、お金とも順調でした。

⇒大運判断：五行では丙火は偏財、子水で身旺となり財を回すことができるようになりました。

⇒1996年に自社ビルを建築しましたが、この年は丙子。奇しくも大運と年運が同じ干支で、我が身も身旺で財運も来て最高潮の年でした。

4、1997年から2006年の10年は、これまでの繁栄の10年から一転します。

2001年に会社破綻、債務は4億円でした。しかし、翌年2002年には自力で会社を再生し復活を遂げます。

⇒大運判断：乙亥の10年ですが、木に漏らしてはいるものの、そのエネルギーは大きいものではなく、亥の水星も味方して回復を暗示しています。つまり、破綻はしたものの、財産をすべて失うまでには至らなかったのです。さらに、亥の水星は壬水の助けとなり、コンサルタントの仕事も順調でした。

5、現在は2007年から2017年までの10年の中で、あと3年で次の大運に入ります。現在の大運は甲戌で、これまでの木と水から木と土に移りました。木に漏らし土に剋される10年なので、今の10年は良い運氣ではありません。寅午戌の三合火局でもあり、できるだけじっとして、動かないほうが良いのですが、そんな中、2013年6月には占い館「たいよの館」を開店しました。

⇒大運判断：甲戌は、壬水にとってはあまりよい五行ではありません。木に漏らして土に剋されて弱体化します。起業、引っ越しには不向きな10年です。

年運判断：2007年 丁亥 △大運が甲戌に変わる 寅午戌(三合火局)

2008年 戊子 △ ↑

2009年 己丑 ×

2010年 庚寅 △

2011年 辛卯 △

2012年 壬辰 ○

2013年 癸巳 × 巳午未(南方合)

2014年 甲午 ×

2015年 乙未 ×

2016年 丙申 △

2017年 癸酉 大運が癸酉に変わる

6、上記、年運の10年を検証してみると、2013年までは2009年以外、干

支のどちらかに水か金星があり、我が身壬水を助けてくれています。ただ、今年 2013 年は南方合と三合火局が同時に巡り、癸水くらいでは対抗できない火旺な年となっています。事故や病気、散財に要注意な年です。

7、残る 2014 年と 2015 年の 2 年間は水金ともになく、今年を含みこの 3 年間は注意しながら乗り切らなければなりません。

ただ、水星にとって火星は財の星でもあるので、2013 年は癸水で助けられて巳の財を回すこともできます。からだに気をつけていれば大金も入らないとは言えません。「たいようの館」はその検証です。

8、次の大運は 2017 年 2 月からで干支は癸酉。待望の水金運で、五行の上では最高の年廻りとなります。

●私自身の破綻経験を考察し推命学で検証

ご説明のように、私は 1985 年に建築会社を興しました。

1990 年代中頃までは、バブル景気の恩恵を受けて会社は成長し、まさに我が世の春を迎えていました。

しかし、バブル景気も 1990 年代終わり頃には終焉を迎え、業界を問わず倒産と破綻、大企業は統合、合併による合理化が日常となります。

私の経営する建築会社は 2001 年に破たんしました。

しかし、1 年後、私は自力で会社を再生させ、破綻前より効率の良い経営に成功します。

●『事業再生コンサルタント』

2003 年頃から、私は建築会社の経営と併せて「事業再生コンサルタント」として自分の破綻経験を生かし、5 年間で 1000 組以上の経営者の面談を受けてきました。破綻経験者のコンサルタント（私）は、相談者と同じ目線、同じ温度差で話ができて、多くの経営者を再生してきました。

●会社破綻の原因を探る

コンサルタントとして業務を遂行する内に、会社の破綻は社長だけの責任ではないことに気づきます。社会情勢や社員の能力、取引先の特性やその他いろいろな原因が重なり破綻となることが多いのです。

●『運命学と推命学』を合体

また、これらの物理的な原因に対し、我が身を取り巻く大きな運命と運氣があることにも注目し始めたのもこの頃でした。

私は高校生の頃から、ヨガや自己催眠といった精神世界に興味があり、当時から四柱推命などの占いも本を読み、実際に先生の門をたたいたこともあります。

私は、経営コンサルタントという現実的な処方と、推命学を合体させた、独自の鑑定方法を作り出しました。

●主に会社経営者を救済する運命学

私は、これまでの人生で「会社破綻」による苦しみほどつらいものはないと確信しています。おそらく、屈強なプロレスラーでさえ自殺の二字を思い描くことに間違いありません。

現に、40代以上自殺の原因は借金と体調不良が常時トップを争っています。

●会社経営の衰勢を予測する

私は、私が経験した「会社破綻」をある程度の確率で予測することができます。

今、経営に苦しんでいる経営者の方、ぜひ一度相談に来てください。

これまで経験したことのないコンサルと推命で、あなたとあなたの会社の衰勢を明瞭かつ的確にお伝えします。

●事業再生と推命学で破綻を予測します

会社経営は山あり谷ありです。しかし、軽度の山や谷であれば経営相談程度で乗り越えられるでしょう。これも経営者たる自分がそうだったのでそのように思います。

しかし、会社が破綻・倒産するかもしれないというような重度の経営難は、経営相談だけでは乗り越えられません。

そこには、物理的な経営難以外に大きな運気が関わっているからです。

●転ばぬ先の杖

推命学とは、明日降り出す雨を予測して傘を持って出かけるような、言わば転ばぬ先の杖みたいなものです。

『雨を予測（推命）して傘を持つ（コンサルティング）』

これでリスクを最小限に抑えることができます。